

年末詣のご利益がすごい！年末のお参りが縁起の良い理由とは

「年末詣」とは年末に神社に訪れ、1年の感謝を伝え、新たな年の祈願をすること。

「初詣」や「お礼参り」と比べてあまり広く知られていませんが、とても縁起が良く、大きなご利益を得られる習慣です。

「まだ年末なのに来年のお願いをしていいの？」

「初詣やお礼参りとの違いはあるの？」

そう思った人も多いですね。

「年末詣」の正しい知識とマナーを知って、縁起の良い年を迎える準備をしましょう。

年末詣とは

別名「お礼参り」「師走詣(しわすもうで)」年籠りが由来で、大晦日の夜の『除夜詣』と元日の朝の『元日詣』との2つに分かれた

「年末詣」は別名「師走詣」とも呼ばれ、その名の通り12月の末に神社にお参りをする。

神社でのお願いが叶ったときに感謝を伝える「お礼参り」と新年の平安を祈る「初詣」をかねて行います。

「年末詣」の由来は、古くから伝わる「年籠り(としごもり)」。

一家の主が大晦日の晩から元日の朝にかけて、氏神さま(氏族に縁がある神様)が祀られている神社に籠る習慣がありました。

一年の感謝を伝え、夜通し新年の無病息災や平安無事を祈りながら過ごしたのです。

「年籠り」はやがて12月31日の夜に行う「除夜詣」と、1月1日の朝に行う「元日詣」の2つに分かれ、それが「年末詣」と「初詣」へと変化したとされています。

今私たちの間で広まっている「初詣」は、明治時代以降に広まった新しい習慣なのです。

年末に感謝とともに「初詣」をする「年末詣」は、年が明けてもご利益が無効になることはありません。

また、「年末詣」と「初詣」のどちらかだけではなく、大晦日までに「年末詣」を行い、年が明けてから改めて「初詣」をするのも良いでしょう。

おみくじも初詣と同じように引くことができますよ。

雑学:「二年参り」とは

新潟県や長野県などの一部地域で残る「二年参り」。

12月31日大晦日の深夜0時をまたいでお参りすることを言い、年をまたぐことから「二年参り」と呼ばれています。

「年籠り」が起源で、「二年参り」の大晦日のお参りが「年末詣」になり、新年のお参りが「初詣」になったといわれています。

前年と新年の2回お参りすることで、ご利益が2倍になるという一説も。

ご利益の理由は冬至と関係？

冬至とは

2024年の「冬至」は12月21日。

「冬至」とは二十四節気という一年を春夏秋冬の4つの季節に分け、さらに6つに分けたもののひとつ。

1年のなかでも最も昼の時間が短く、夜の時間が長くなる日です。

「冬至」を境にして日が長くなるので、古くから世界各地で季節の変わり目や新年の始まりと考えられるようになりました。

冬至の近くは神様のパワーが強く願いが叶いやすい

「年末詣」がご利益あるといわれるのは、冬至の近くであることが関係しています。

冬至で太陽の力が一番弱まり翌日からまた強まることから、陰から陽に転じる節目として運が向いてくると考えられているのです。

新たに物事を始めるのにも適しており、神様の力が強まる時期とされています。

「年末詣」は神様のパワーが強まる「冬至」の近くに行くため、願いが叶いやすく、ご利益が得られるとされているのです。

年末詣をするときのポイント

欲ばかりはNG、まずは感謝を伝えるのがマナー

「年末詣」では、今年1年間のお礼をしたうえで、新年の抱負を伝えるのが基本です。

神社へのお参りは、願いごとを神様に叶えてもらうために行くと考えがち。

神様の立場に立ってみると、願い事ばかりで感謝の気持ちがない人にはうんざりしてしまいますよね。

まずは感謝を伝えることが何よりも大切です。

毎日を平穩に過ごせていること、いつも見守っていただけていることにお礼をしましょう。

「仕事で成功させてください」など自分の努力が必要な願いを、他力本願で叶えてほしいという願いは聞いてくれません。

また、他人の不幸を願うことも聞いてくれないのでやめた方が良いでしょう。

自分の力で努力することを前提に「応援してください。」「見守っててください。」と伝えます。

欲ばかりではなく、前向きな努力への応援をお願いします。

ただし、病気の治癒など、自分の力ではどうにもならない願いはしても構いません。

健康を祈ることも良いとされています。

どこで詣でるのが良いの？

「年籠り」も氏神様に詣でていたように、自分の住む地域の「氏神神社」がおすすめです。

「氏神神社」とは地域を守ってくれる神様を祀っている神社のこと。

名前の通り、本来同じ地域や集落にすむ氏姓を同じくする祖先と縁のある神様を祀っていたことに由来します。

土地の神様が祀られているので「氏神神社」と呼ばれ、その地域に住む人々を長く見守ってくれているのです。

自宅から近いからといって「氏神神社」とは限りません。

インターネットで調べたり、直接足を運んで伺ってみたり、神社庁に電話で問い合わせたりして確認するのがおすすめ。

もし初詣で「氏神神社」ではなく特定の神社へお参りしていたら、その願いをした神社に参り、そこで感謝を伝えるのがマナーです。

また、お札やお守りは1年が期限なので、もらい受けた神社へ返納し、お焚き上げをしてもらうのが一般的な方法。

もらい受けた神社ではない場所へ返納すると違う神様のもとに返すことになり、失礼に当たる場合もあります。

返納の仕方は神社によっても異なるので、事前に確認をしておくといいですね。

いつ詣でるのがよい？おすすめの参拝日

年末詣は「煤払い(すすはらい)」以降(14日)がおすすめです。

「煤払い」とは、年末の大掃除のように境内外を清掃し清める行事のこと。

煤払いが行われることが多いのは「正月事始め(しょうがつことはじめ)」の12月13日。

日程的には煤払い後の12月14日から12月31日の大晦日までが良いです。

神社が1年で最も清い期間にお参りし、今年1年のお礼と来年の抱負、そしてお願いごとを伝えましょう。

大晦日には「年越しの大祓式(おおはらえしき)」という心身を清めるための神事が執り行われることが多いです。

「年越しの祓」とも呼ばれ、災厄の原因になる罪や過ちを祓い清めて新しい年を迎えることから、年末詣も同じ日に行うのがよいともいわれています。

年末詣に限らず、時間帯は「日の出ている間」がおすすめです。

日が落ちると不浄なものが入り込むといわれているので、参拝するときは明るい時間帯のお参りが推奨されています。

冬至の他にも理由アリ、なぜ縁起よいのか

神社は「煤払い」で隅々まで掃除し、整えられた綺麗な屋内外には清々しい空気が流れ、気持ちよく参拝ができます。

神様も同じで、きれいな境内になるこの時期はご機嫌がよくなるのです。

初詣には多くの人を訪れ、「欲」や「念」など良くない気も集まります。

大勢の人の願いを聞かなければならないので、神様も疲れてしまうでしょう。

「年末詣」の方が「初詣」時より人が少なく落ち着いているので、気持ちも穏やかにゆっくりと参拝することができます。

丁寧に感謝を伝えることができ、神様もひとりひとりの声をよく聴いてくれるので、願いが叶いやすいのです。

年末詣は良いことばかりの習慣だった

「年末詣」とは、年末に1年の感謝を伝え、新たな年の祈願をすること。

神様の力が強まるといわれる縁起が良い日に、縁のある神社で行うことで大きなご利益を得られます。

祈願ばかりでお礼をする習慣がないという方はこれを機に年末詣で神様に感謝を伝えてみては。

神様が振り向いてくださり、あなたの1年を応援してくれますように。